

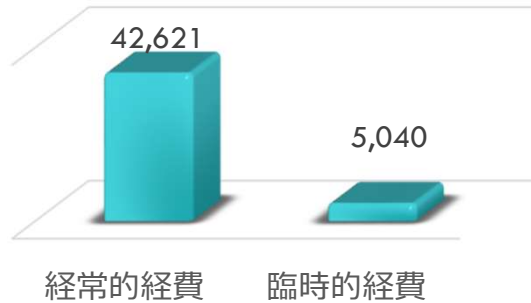
政策6 環境を大切にして未来につなぐまち（生活環境）

施策02 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進/斎場/墓地

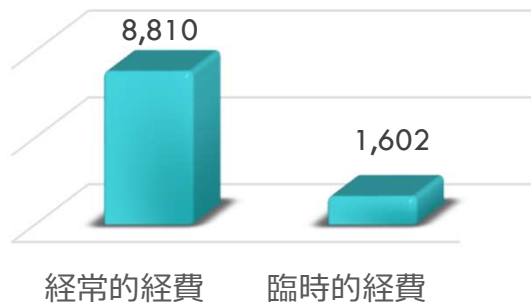
施策の方向性・目標（総合計画より）

市民、地域、企業及び行政各々の役割分担のもと、サーキュラーエコノミーの実現に向け、ごみの排出抑制やリサイクルによるごみの減量化等、本市の実状に即した持続可能な循環型社会の実現を目指します。また、資源として有効利用できない廃棄物は環境への負荷低減に配慮し、適正かつ効率的に処理できるまちを目指します。斎場は適正かつ効率的な管理が行われ、墓地は多様化する市民ニーズに対応した官民分担により、需要に見合った墓地用地の供給が図られているまちを目指します。

経費の内訳（万円）



特定財源の活用（万円）



※特別会計は除く

現状と解決すべき課題

【廃棄物の適正処理】

- ・廃棄物処理施設の適正な維持管理、処理能力の確保と延命化が必要です。
- ・市内に2箇所ある最終処分場の残余容量が逼迫しています。

【廃棄物の減量化・再資源化】

- ・分別の徹底やごみの廃棄量削減、資源化を推進するため、9種23分別の完全実施、併用(旧分別)収集の段階的廃止が必要です。
- ・事業系ごみの排出指導や収集体系の統一、事業系ごみの処理手数料の適正化のほか、将来見込まれるごみ出し弱者対策の検討が必要です。

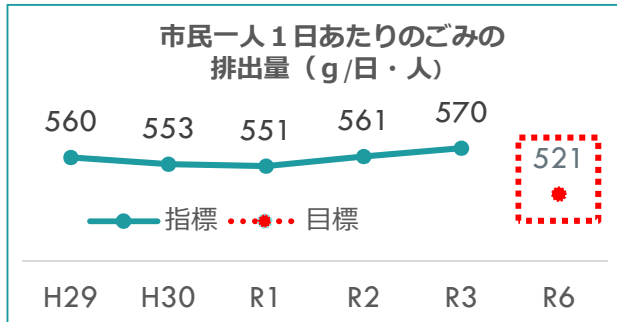
【適正かつ効率的な斎場運営】

- ・備前斎場、日生斎場を管理運営しています。いずれの施設も老朽化しており、運営体制のみならず、維持管理費等のコスト増大が課題です。

【墓地の管理・供給】

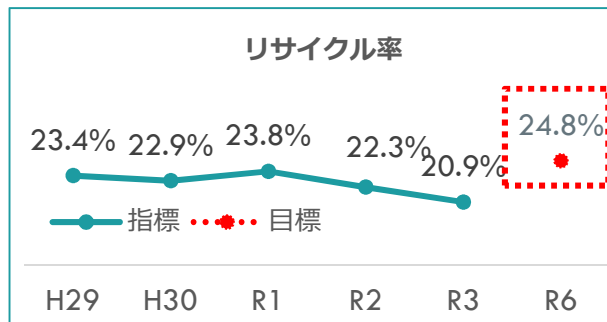
- ・市民が安心して利用できる市営墓地の維持管理を継続していくとともに多様化している市民ニーズをとらえながら、公衆衛生の観点から快適な住環境の保全と官民分担による適切な墓地用地の供給が必要です。

成果指標（達成したい目標）



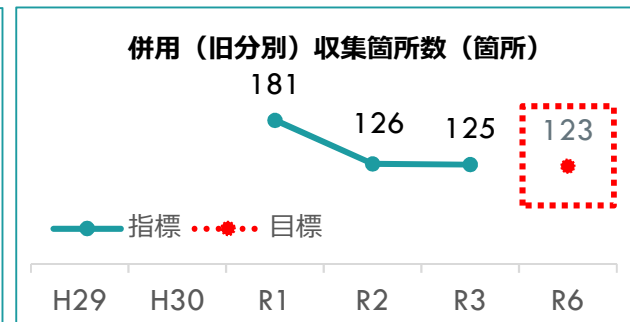
成果指標の分析

排出量の増加について、コロナ禍による在宅時間の増加が要因と考えられる。目標値に向け、ごみの発生抑制に努める。



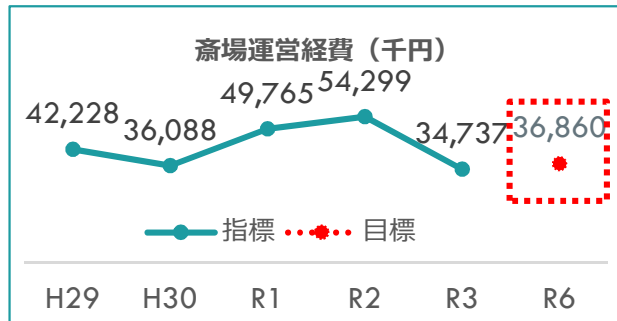
成果指標の分析

リサイクル率の低下について、コロナ禍による資源回収推進団体の活動が自粛されたことに伴い、資源回収量が減少したことが要因と考えられる。目標値に向け、リサイクル推進に努める。



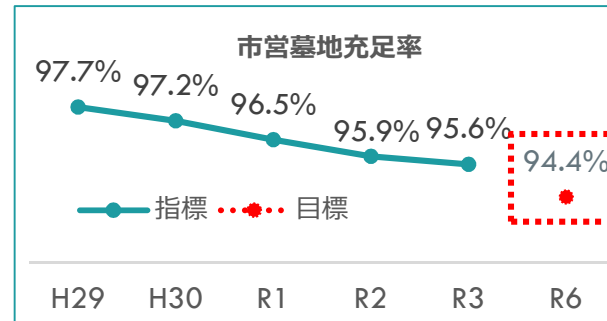
成果指標の分析

コロナ等の影響により、9種23分別導入が進まず、併用(旧分別)収集箇所数が横ばいとなっている。



成果指標の分析

和気北部衛生施設組合を脱退し負担金等がなくなったことに伴い、減少した。効率的な斎場運営の継続に努める。



成果指標の分析

墓じまい等による墓地の返還数が増加し、充足率は低下傾向にあり、墓地需要を満たしている。

指標の説明

【市民一人1日あたりのごみの排出量】 年間の家庭系ごみ量÷行政区域内人口（※資源化量を除く）  
 【リサイクル率】 (直接資源量+処理後再生利用量+集団回収量)÷(排出量+集団回収量)  
 【併用(旧分別)収集箇所数】 資源回収ST設置状況  
 【市営墓地充足率】 (使用区画数-返還数)÷総区画数

政策6 環境を大切にして未来につなぐまち（生活環境）

施策02 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進/斎場/墓地

課題に対する主な取組

課題	具体的に実施した事業や取組	事業や取組の概要	予算執行（万円）	アウトプット （どのくらいの事業や取組を行ったか）	アウトカム （どれだけの成果が得られたか）
廃棄物の適正処理	一般廃棄物最終処分場整備	最終処分場建設に向け、各種調査及び計画の策定を行う。（R3～R4）	418万円	プロポーザルにより業者を選定し、R3年度分について業務を実施した。	本業務委託の進捗率 12.8% R4年度中に予定通り完了予定
廃棄物の減量化・再資源化	生ごみ処理容器購入補助金交付要綱	生ごみ処理容器購入補助金交付要綱を改正する。	373千円	補助金交付 34件	補助金交付申請が簡潔になった。
適正かつ効率的な斎場運営	効率的な施設運営を目指すため、施設の統廃合を検討する	2つの斎場を統括管理するため運営体制を統一する	-	日生斎場の運営体制を変更するため、人員配置の見直し及び調整を行った	運営体制の統一に向け、体制を整えた。
墓地の管理・供給	広報紙への募集掲載 墓地返還に伴う還付金	市営墓地13か所 永代使用料は各墓地により異なる。返還に伴う還付は使用年数により異なる。	372万円	新規使用 9件 返還 16件	使用区画数 1,410区画 残区画 65区画

施策の評価

一次評価者	役職 氏名	【進行年度の取組内容】 （課題解決状況）	人員配置の見直しを行い、斎場の火葬執行体制を充実させることができたことから、廃棄物の適正で効率的な処理を行うため、廃棄物収集業務、廃棄物焼却業務、最終処分場管理業務について、人員配置を含め、業務の見直しを検討している。
	環境課長 野崎 信二	【翌年度の取組目標】	廃棄物の適正で効率的な処理を行うため、直営での収集業務とアウトソーシングを検証し見直しを行う。
二次評価者	役職	市民生活部長	可燃ごみの減量化や資源化については目標値達成に至っていません。引き続き、ごみの減量化さらなる分別やリサイクルの推進に取り組み、一般廃棄物の適正処理と省資源・循環型社会の構築を推進していく必要があります。
	氏名	濱山 一泰	